

年間第二十一主日（主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 16：13 - 20

イエスは弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。弟子たちは、「洗礼者ヨハネだか、エリヤだか、エレミヤだか、預言者の一人だという人もいます」と答えた。使徒たちの中で、シモン・ペトロだけ「あなたはメシア、生ける神の子です」と宣言した。そのために、イエスは、彼が幸くて、現したのが天の父なのであり、ペトロという岩の上に教会を建てるとお答えになった。イエスは、彼に天の国の鍵、さらに地上で繋ぎ、解く権能をお授けになった。

（二）カテキズムの響き：『カトリック教会のカテキズム』の番号 #436、440-443、424、552-553、857、882；YOUCAT #73 - 74、92、138）

キリストという言葉は、油注がれたものという意味のメシアというヘブライ語のギリシア語訳に由来するものですが、神の子という称号、神と特別に親しい関係を持つ人々と神との間に結ばれた養子身分を表しているのです。だから、聖霊の恵みに動かされ、御父に引き寄せられて、啓示を受けているペトロは、イエスがメシア、生ける神の子だと宣言したのは、イエスは主によって油を注がれるものとしてその祭司、預言者、王の三つの任務において、イスラエルのメシア待望に答えられたことだけではなく、神の子としての御子の超越的性格を認めることができたことです。つまり、教会の礎とされたペトロによって、まず宣言されたこの考えは、当初から使徒たちの信仰の核心となってきます。なぜなら、主キリストはペトロに名を与えられたシモンだけを教会の揺るがない岩となり、兄弟たちの信仰を固める使命をお授けになります。（マタイ 16:18）「生きた石」（一ペトロ 2:4）であるキリストは、ペトロの上に建てられた教会に死の力に対する勝利を保証なさるということです。

十二人の使徒団の中で、シモン・ペトロが首位を占めます。イエスは、天の国の鍵をお渡しになることは、「鍵の権能」を伝えることです。これは、教会という神の家を治めるための権威を意味します。「繋ぎ、解く」権能は、罪をゆるし、教義上の判断を下し、教会の規律に関する決定を行う権威を意味します。イエスは、この権能を使徒たちの奉仕の務め、特に、ペトロの奉仕の務めを通して教会に特別な使命をお委ねになりました。即ち、天の国の鍵を委ねられたことによって、群れ全体の牧者に立てられました。だから、信仰宣言において、教会は使徒継承であるというのは、教会が使徒たちの上に建てられたものです。ペトロと他の使徒たちとのこの司牧の務めは、教会の土台をなしています。これは、教皇を頭とする司教団たちによって継承されています。司教団は、ペトロの後継者たるローマ教皇がその頭として、全教会の上に最高、完全、普遍の権能を有し、それを常に自由に行使することができます。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

- #79 イエスは「生ける神の子」（マタイ 16:16）：
御子キリストは死と復活によって、私たちを神の子の命と救いをもたらします。
- #109 使徒たちはキリストから教導と統治権、罪のゆるしの権能を受けます。
174 キリスト者「教会は使徒的」という信仰を宣言します。
- #182-183 カトリック教会における教皇と世界司教団の教える使命と十全な権能：

最後の祈り： 「にケア・コンスタンチノーブル信条」において、
キリストと教会に関する部分へ信仰宣言をご利用します。
（『カトリック教会のカテキズム』 52 - 54 ページ）